

平成22年度 第1回京都府子育て支援対策協議会の概要

1 日 時 平成22年9月21日(火) 10時30分～正午

2 場 所 ルビノ京都堀川 朱雀の間

3 出席者 澤田座長、伊藤委員、大江委員、岡崎委員、神村委員、
川村委員、櫛田委員、武田委員、山岡委員

4 議 事

(1) 平成21年度京都府子育て支援に関する施策の実施状況について

【主な意見】

ア 京都府子育て施策の平成21年度実施状況について、実績がまとまったため、施策が有効且つ効果的に実施されたかどうかについて、検討も行いながら、点検・評価を行うとともに、今後の取組について提案する。

(ア) 総評

- ・ 平成21年度の子育て支援施策は、未来っ子いきいき応援プランの前期行動計画の最終年として、約145億の施策が実施されており、家庭支援総合センターの竣工、妊婦健康診査支援事業、こども未来基金により保育所整備、子どもにやさしい緑の広場整備事業などの新規施策も合わせ多様な子ども支援施策が実施されている。

(イ) 目標数値が掲げられた事業

- ・ 目標数値が掲げられた35施策の実施状況を、「達成」、「ほぼ達成」、「目標との差が大きい」の3類型に分類して評価。
- ・ その結果、「達成」、「ほぼ達成」は23事業であり、ほぼ2/3の事業が目標を達成している状況である。
- ・ この間、数値目標を含め、平成17年度からの実績を踏まえて、後期プランが作成され、その中では、新たな課題認識や従来目標の今日的な見直しによる取組の推進を明らかにしたところであり、その確実な達成に向けて、時宜に応じた施策等に尽力されたい。

(ウ) その他の意見及び今後の取組についての提案

- ・ 出生率の低下に対する施策は、府独自の発想を持った事業も大切であるが、日本全国で考える必要がある。
- ・ 親になる人を育てる先を見た施策が必要である。
- ・ 若い間に子どもを産んでも虐待が起こらないよう、経済的に生活を保障をするような制度が必要だと思う。
- ・ 子育ては費用がかかるので、例えば3人目は、高校卒業まで授業料等が無料だとすると、3人目の出産も考えるのではないか。職場の環境問題も解決しながら、経済的な不安も解消してもらいたい。
- ・ 不妊治療に使っている費用は、有効に活用されているので、その結果が見えるように工夫してほしい。
- ・ 中・高・大学生に対して、親になる喜びなど、総合的に教育していくことが、将来的に必要な施策になる。
- ・ 親への教育や親になる前の支援などは社会全体での長期的な取組が必要であり、一方で、必要な人への必要な時期の対処支援は、行政が

実施すべきであるので、その観点での施策の点検・評価が必要である。

- ・ 夜間勤務の人達を支援する方策も考える必要がある。
- ・ きょうと子育て応援パスポートについては、府民にもっと周知する必要がある。
- ・ 虐待の対策は、実効性のある取組を強力に推進してほしい。検証委員会からの提言に対して、実行状況を数字では表せないと思うが、率直に記載する必要がある。また、小・中学校の先生には虐待の問題対応は困難と思われるので、そこに絞った対策も考える必要があるのではないか。

(2) 報告事項

ア きょうと不妊治療支援プラン（仮称）について

イ 「きょうと育児の日」の制定について

ウ その他